

令和4年度第4回スポーツ団体組織統合検討会議 順末

日 時：令和4年11月14日 18時00分～20時00分

場 所：駅前交流プラザよろーな会議室4

出席者：別紙のとおり

1.会議メンバー紹介

菊池慎二（風連スポーツ協会）、明石裕（風連スポーツ協会）、筒井正敏（風連スポーツ協会）、遠藤和之（名寄市協）、山田典之（名寄市議会）、山崎真由美（名寄市議会）、阿部雅司（Nスポーツコミッショナ）、遠藤貴広（Nスポーツコミッショナ）、荻野大助（Nスポーツコミッショナ）、黒井理恵（Nスポーツコミッショナ）、加勢雅善（NPO法人ETIC.／外部人材）、松澤大介（名寄市）

2.検討内容

（1）新組織における活動方針と現状の活動方針の確認

- ・キッズは遊びの中から育てる、ジュニアは多種目の中で自分の得意を伸ばしていく。
- ・少年団の指導者人材の確保が難しくなっている。指導者の発言や体罰も含めた態度についても注意しなくてはならなかったりして、技術的なものを上げるだけでなく、子どもたちを教えるためにはいろいろ学ぶべき事がある。先生・学校が任せられる指導者とはどんなものか。先生の指導と、一般の指導者とはまったく違い、一般指導者は昔ながらの指導で学校の先生は不安になっている。指導者は常に更新が必要で、学ぶ為に外に出ていけるように、また、指導者登録料が1万円とかかかるので、経費に対する保証もあるべき。
- ・教育委員会主催の競技団体の集まりに呼ばれ、部活動について話し合った。R7年度を目処にと言われている。外部から、できるところから、という国の方針があるが実現できるかどうか。先生が教えているスポーツが好きで、ということなら成り立つかもしれないが、最近は自分の時間をもちたい先生も増えている。日頃接している保護者が指導すればいいのでは、という話も出ているが、風連地区は指導者の高齢化も進み人も減少する中で、育成などできるのか、頭を悩ませている状況。スポーツ協会だけでなく、少年団協議会と足並みを揃えて進めていけるように、十分な議論が必要だと思う。
- ・部活動改革は教育委員会が進めている。R7地域完全移行を目指す。とはいえるが、できること・できないことはある。部活動も含めて、トータルで考えていきたい。この会議・Nスポでも考えていきたい。
- ・名寄市教育委員会としては、計画ができているか？
回答（名寄市 スポーツ合宿推進課 松澤）／今はできない。先が見えないのに取り組むのはどうか？できるところ・指導者がいるところからやっていくとどうか？など意見は分かれている。枠組みはできている。外部指導員へのお金や身分の問題など。あとは各部活動がどう外に出していくか、ということになる。
- ・なにかトラブルがあったときの責任はどうなるのか？教えるだけなら良いが、子どもたちの揉め事などの問題をどこまで対応するのか検討が必要。

回答（名寄市 スポーツ合宿推進課 松澤）／学校の先生と同じ身分。ケガなどをしても、基本的には部活動と同じ身分なので責任が一人によるということではない。現場からは土日だけ任されてもね、という話しも出てきた。具体的な内容については、その教育委員会からの会議で話すことになる。

・各学校にある野球部であっても、指導者がいないという未来がくるだろう。そういった場合に指導者を共有するとか合同練習などの可能性もあるが、それは学校同士が良いと了承すればできる。ただし大会は別問題である。バレー、野球、など、風連や智恵文などはそういうスタイルを取っている。クラブチームとして出て行くというパターンも生まれている。全国大会をやめようという競技もあるし、クラブチームで全国大会出場とサッカーのような例もある。前回の教育委員会の会議の中では、中体連、高体連もなくなるのでは？という不安？もある。となると部活動もなくなるのでは？という意見も出ている。

・国ではコーディネート人材・団体に対してお金を出すということになっている。現在は一応教育委員会が窓口になっている。コミッショナントとして、そういった事業を国や市から受けていくという方向もある。インティグリティ教育というキーワードはJOCなどの場面では必ず出てきているもの。

・（名寄市 阿部特別参与）／発掘育成→幅広く子どもたちを育成している。データのいい子どもたちを伸ばす。運動だけでなく、教育、メンタル、人間としても育っているプログラムを年間通じてやっている。育成としては3年前からオリンピックでメダル獲得が期待できそうな競技種目として、冬季5競技、夏季3競技を札幌市内の10ヶ所で20~25名の定員制総勢300名で開催。競技団体に予算を割り振って育成を依頼し、小学生を送り込んでいる。現在は3年目の事業になり、高校生までの育成コース。世界大会、国内大会で結果が出始めている。子どもたちを決めつけないでいろんな体験をさせる。バランスの突出している子は、ジャンプの体験の結果もいい、ということで保護者にお勧めしたりもしている。名寄の子どもにもいろんな体験をさせたい。

・年間のプログラムでいろんな体験ができるようにしたらしい。いろんな競技やトレーニングができたら。いまのJr.アカデミーみたいにする。競技団体とコミュニケーションを取りながらできれば。測定会で一人ひとりに向いている競技がわかるみたいなプログラムもあり、札幌でもやっている。300人で300万円かかっているがその場で結果を渡せるのもいい。

・名寄市 阿部 特別参与／競技団体がつながるようになったのは補助金を出すようになってから。そういう計画で育成できるかの企画書を持ってきて、プレゼンをするようになったところがきっかけ。名寄でなにかやるにしてもそういう機会を創ったらしいかも。あとは夏冬で競技を分けたら（夏は野球、冬はジャンプ的な）。野球だったら名中、バスケだったら西小、など指導者がいるところに集まる、という形にしないと成り立たない。そこから中体連とか出場できるようになれば良いが、国はまだそこまで行ってない。また指導者は講習を受けないと指導者になれないという制度は必要。ボランティアによる運営は責任感も薄くなるので、難しいだろう。

（2）新組織における競技普及・健康作りについて

・楽しみながらスポーツをするという場所や機会が増えたらいいと思っている。最近ではパラスポーツ、ゆるスポの名前が挙げられるが、昔は風連で誰しもが参加できる機会として、町民運動会や福祉運動会というものが開催され物凄く盛り上がった。風連東小学校、農民運動会など。名寄市でも町内会での運動会が開催されていた。地区対抗でリレー競技や綱引き競技など。コロナ前までは企業の運動会など、団体単位で開催する運動会も存在していた。智恵文地区のミニバレー同好会はもともとは農村地区での運動不足解消をやっていた。軽スポーツができる機会がつくれればいいなと思っている。

・健康増進を目的に札幌市内の公園などで実施しているように、装飾を行い開催してはどうか。名寄公園を使用しウォーキングなどを開催すれば、市民が参加できる機会になるのではないか。特にこれから雪が降るので、歩くスキーが街の中でできる場所を創ってほしい。中島公園などを電飾で飾りつけし行っている。浅江島公園は以前の様に、もしくは、明かりのある名寄公園など。冬にカッターを入れてもらったり、道を作ってもらったりできればいいのに。風連ではかつて東運動広場があった。道民スポーツ大会があったときにはトレーニングしている人がいた。ビニールハウスカーリング場など色々な施設があった。健康の森では照明がないので、日没が早い冬季は利用しにくい。また、気軽かつ実施している様子がわかる街中のほうがいいのでは。

・夏は早朝から河川敷で歩いている人がたくさんいるが、冬季になると、走る・歩くなど安全にできる場所が少なくなってしまう。そういう意味で、明かりのある名寄公園はいい。真駒内公園は1週3キロ。散歩する人と歩くスキーのコースがある（真駒内公園は道の施設なので、管理者がいる）。かつて産業高校でバイアスロンをやっていた時は、周回コースを回るように指導者が名寄公園にモービルで道を作っていた。

・冬季にゴルフ場をウォーキングに使用したりするアイデアもあり、以前交渉をしたが担当がいなくなり浮いてしまった。

・働き盛りの中間層をどうにかしたいと思っている。企業に向けてなにか仕掛けることかできれば。中間層、働き盛りである人は運動をしていないので、ノルディックウォーキングなどができると良いのではないか。週に一回、ノー残業デーを設けて歩いて帰宅をしましょうと促すなどの施策はどうか。個人として健康、内面的に、自発的に運動し気づきを与えるような方向に持ち込む施策を設計ができないか。健康指導のアプローチがマッチするかもしれない。自宅近くに運動できる環境があれば気兼ねなく運動を実施でき良いと見解が日本スポーツ振興センターからも出ている。

・イギリスでは街の整備の仕方により運動実施率に影響するというデータもある。気軽にスポーツができるという環境づくり。ただしお金の壁もある。街の整備に年間500万円かかるが、医療費が500万円下がるなど、医療費削減に繋がることを定量的なデータを取得し医療データと連携し相関性を示せないのか。

・医療費との相関データは定量的に図るのは難しい。スポーツ施設あるが、距離遠く時間がかかりアクセスではハードルが上がる。近くの公園を整備したほうが心理的なハードルは下がる。現在悪循環になっているのかも、というところもある。

・山形県上山市・クアオルト事業を紹介する。観光×健康と掛け合せたヘルツーリズム事業。健康になるために観光施設に宿泊する取り組み。毎日、宿泊者はウォーキングをする。運動前に脈拍を測定する。10年継続中の取り組みとして、毎年1000人にデバイスを配布し、歩数や距離を測定し、歩行距離が長い人であればあるほど健康であるという証明がある。今年は30~40歳代に年齢を絞り測定をしている。その他、睡眠中のデータ測定やストレス値、最大酸素摂取量など、配布したシンプルなデバイスを通して、街の中で血圧や体重測定が可。街の中のBOXで測定によりポイントが受け取れる。健康ポイントはお買い物ポイントに交換できる仕組み。

・オクトーバーラン＆ウォークの名寄独自のものができたらいい。例えばスマホアプリで走ってみたり、歩いた距離でランキングが発表されるような管理をするなど。よりわかりやすく市民に提案できる形にしていくべきではないか。1か月20万歩以上歩くとXポイント付与する、などもやっている。高齢者の方が積極的に実施中。

・名寄の健康ポイントは保健センターが管理している。地域通貨との連携も考えられる。地域通貨・ポイント制度は商工会議所で検討中。近場で運動ができる場所があるかどうかが大切。パラスポーツ・障害者スポーツは今後市としても取り組みたい。これからセミナーも実施予定である。その際に市民としても支える人もボランティアではあるが必要になるだろう。

（3）新組織における実施すべきイベント

・風連は特段大きなイベントはない。パークゴルフがすごい。2つ協会があるし、びっちり。いま最強の団体。昔はゲートボールだったが・・・いまどうしているのか。冬用のボールでやったりしているもみたいたが風連でのスポーツイベント（雪の上で実施するイベント）はどうか。冬もできるパークゴルフ場をつくったら人が来場するのでは。確か東風連かどこかで冬季にやっていたのでは。ビニールハウスなどではないか。街中運動会は名寄の名物にしていきたい。

・ラン＆バイク。デュアスロン。100KMコース。名寄で100KMコースが作れれば名寄名物にできるかもしれない。

・ハロウィンのように仮装してスポーツするイベントはどうか。コロナ流行前の過去に札幌へ雪を運んできて実施したことがあるのでは。大通りで仮装して歩くスキーをしたら楽しいかも。

・商店街アーケードの雪を落としてそれをつかって歩くスキー大会とか。

（4）新組織における財源確保に関する意見交換

・地域活性化事業について（現時点では事業になっていないが国の予算として推進中）スキー場周り、健康レシピ開発（味の素と共同レシピ）、勝ち飯（味の素の商標）というメニュー（主に五輪で使用）を名寄市立

大学の学生（栄養学科）がレシピ開発中。今後このレシピを学生が開発したものとして、体に良いアスリート向けの食品として、年内になよろサンピラーホテルにて記者発表を行う。「勝ち飯」として街の中に出ることは大きなPR効果。基本的にはナショナルトレーニングセンターで食すもの（アスリートのみしか食せない）を市民に食べてもらう機会は面白く名寄独自ではないか。

・冬季スポーツの合宿のメニューに盛り込みたい。2022年2月に西條でプレス発表（日経新聞）し、注目を浴びている。名寄市がアスリートのためにも、スポーツのためにも良いことをしているという広報になる。また名寄大学のプロモーションにもなる。

■まとめ

（名寄市 スポーツ合宿推進課 松澤課長）：

①Jr.育成 ②イベント③地域経済活動を中心として話してきた。

Jr.育成の話は、育成環境をどう作るかがキーワード。指導者と合わせ、彼らをどのように指導者として活動しやすい環境を作るかについても、N コミッションとして取り組むべき価値がある事業であると考えている。部活動の改革についても、市もN コミッションの動きを注目しており、市もコミッションに実施を期待している。教育委員会では部活動に注目が集まってしまうが、幅広く組織を形成できれば、トータル（小学生～大学生世代まで）に育成環境を作ることもN コミッションとしての役割が果たせるのではないか。

健康普及づくりについて、近くに楽しめる・運動ができる環境があることが大切。働き世代へのアプローチも重要。市の健康ポイント制度と結びつけ、運動しやすい・運動しようというマインドを作る仕掛けも出た意見を参考にしたい。イベント関係でも、昔の運動会の話題が挙がったが、コミッションとして、健康増進につながるようなアプローチを行うと、さらに運動しようという機運醸成につながるのでは。

（5）表彰について

それぞれの協会の表彰規定をどうすりあわせするか。

・表彰式はなくすわけには行かないが両方歩みよってどこで決めるか。ここは両協会に任せてもらいたい。

・今後の会議の予定は？今後、会議開催状況などを聞かせて欲しい。前回からは会議は開催されていない状況。

回答：今後、体協・スポーツ協会の事務局検討会議を立ち上げる予定。事務レベルの打ち合わせがおそらくもたれる。一定程度の方向性がでるかと思う。

（6）新組織における理想とする収益状況について

・N スポではスポーツツーリズムとしての視点もある。素案では指定管理の部分などを想定している。どのようなすれば収益が上がるのか。

スポーツ施設運営費／風連周り：年間4000万円の施設管理（人件費を除いて）、名寄：1億1000万円（フォレスト、ジャンプ台含む）で全体では1億5000万円。

・スポーツセンターもいまは指導者がいないが、一人でも職員の中にトレーニング（ウェイトなど）指導ができる人がいるだけで変わってくる。健康の森では歩くスキーも貸し出ししているが、金具の付け方も教えてもらえない。少しでも教えてくれる人がいれば施設が生き返り利用されるようになる。そういう点から変えていく必要がある。ただお金払ってもらうだけでなく、生きた施設になれば。

・施設の中にワンポイント教えてくれる人がいるというのは大事。欧州ではトレーナー、インストラクター、医療関係者もいる、みたいな環境までいくといい。そこまでいけなかつたとしても目指したい。長期的視点になると思うが、観光とスポーツコミッショナが連携する（金沢や軽井沢視察での感想）スポーツの大会に観光的な要素を入れ観光協会を入れ、スポーツ大会では地域を知れなかつたので、子どもが大人になってから再度訪問したいと思わせるような仕掛けづくりを長期的・中長期的・短期的な視点で考えていく。

・剣道では風連で名寄市の子どもたちを引き受けている。現在報酬はもらわない。剣道連盟が行っている。指導者の資質を高めるため、指導者のレベルをそろえる。来年の3月からスタートしたい。剣道は指導が難しく、学校の先生の力を借りて、やっている。学校の先生の力を地域の指導者になれば。小学校の低学年までは色々な種目をやらせたらいいなと思うけど、武道は小学校1年生から行い、小学校3年生では遅いと言われたりする。クラブ活動ではやりたいという話も出ているが、初心者向けの指導者をどうするか、という話も出ている。本当は小学生に色々なことをやつたら良いと思っているし、保護者もそう思っている。時代遅れもあるかもしれないが、大きな組織なので、制約が多く大変組織を動かしにくい。過疎地域では人を集めないと飛び抜けた人が出てこない。都市部では数が多いので優秀な人が出てくる。

・柔道の上野愛子さん（オリンピアンで名寄出身）の母を呼んで講習したことがあったが、いろんな体験（コーディネーショントレーニングなど）をさせたほうが良いと言っていた。

・（N スポーツコミッショナ 黒井）／これまでの調査から収益事業を以下6つに分類できる。

- 1) 施設管理・指定管理
- 2) 施設使用料（課題：小さい施設は減免で利用するが多く 民間利用が多く 赤字体質）
- 3) スポーツ教室（会費として費用を回収）
- 4) 自治体や競技団体からの事業受託（大会など事務局運営、特に健康福祉まわりは手薄）
- 5) 道や国からの補助事業・施設改修事業（追加メリット：雇用も維持）
- 6) 観光業との連携（秋田県・鹿角市などは大会開催時の配宿、旅館組合と現地視察）

各旅館ではなくスポーツコミッショナで予約を受け旅館へ配宿し手数料を受け取る。スポーツ合宿奨励補助事業あり（年間予算：2,000万円）他、休息の時間に地域を知る機会づくり

※その他：会費、参考）スポーツコミュニティー軽井沢クラブ（カーリングでまちづくり）

・既存の事業、新規事業ともにどう収益化していくのか。収益とは、対象者に何かしらのサービスを提供しお金を受取るということ。内需（名寄市内）なのか、外需（道外・道内）なのか、ということを考える。外需の中にインバウンドというのもある。アジア系、ヨーロッパ系ではニーズが違う。アジアは雪がコンテ

ンツになる。収益化で考えると、スポーツ関連予算前提と考えがちである。一方で子どもの居場所が足りない。子ども家庭庁で子ども第3の居場所を作ろうという予算が出ている（年間約1,600万円 厚労省）こういうのをあてがう、指導者が足りないというのもここで当てるということも。健康寿命などの観点からも予算もあるのではないか。スポーツ関連以外から予算を立てていくという方向もあるかなと思った。

（7）アイデアについて

- ・白川郷、Japanトレイルなどのアイデアもある。インバウンド。グローバルの人が日本を感じるために歩くコースを整備。雪道を歩ける、というのはあるかも。日本全国規模のものに持つて行くというのもあるかも。
- ・スノーバレーボール：2,030年オリンピック種目を目指している。蔵王で実施、競技人口少ない。札幌五輪誘致も想定してフラッグシップがあるといいかも知れない。名寄市スノーバレーボール協会を立ち上げるとか。勝手に国際大会を開くなど。味の素がスポンサーなど。ニッチだけどエッジが立つものがいいかも。夏のビーチバレーと同じ要領で冬季に開催するバレーボール。（日本バレーボール協会も後押し）
- ・アーバンスポーツ：スノーバレーボールはアーバンスポーツに近い考え方。冬のアーバンスポーツ。知らない人たちが集まってチーム作って大会できる、みたいなのがアーバンスポーツの醍醐味では。
- ・教育委員会含めて部活動の大会に対して、今後自治体としてのスタンスが問われていく。名寄市としての方針を決めざるを得ない時期がくるのでは。名寄市としてどう競技大会と向き合うのか、というのを決めなくてはならないのでは。どの自治体も同じ。子どもたちが一番困る。悩んでしまう。大事な議論だと思った。国が指令を出すとは思えない。競技団体に任せてしまうと思うので、考えるべきでは。

（9）まとめ

次回会議

12月19日（月）18:00～20:00

1月末に代表者会議を開催予定。

第6回を2月に実施予定。

以上